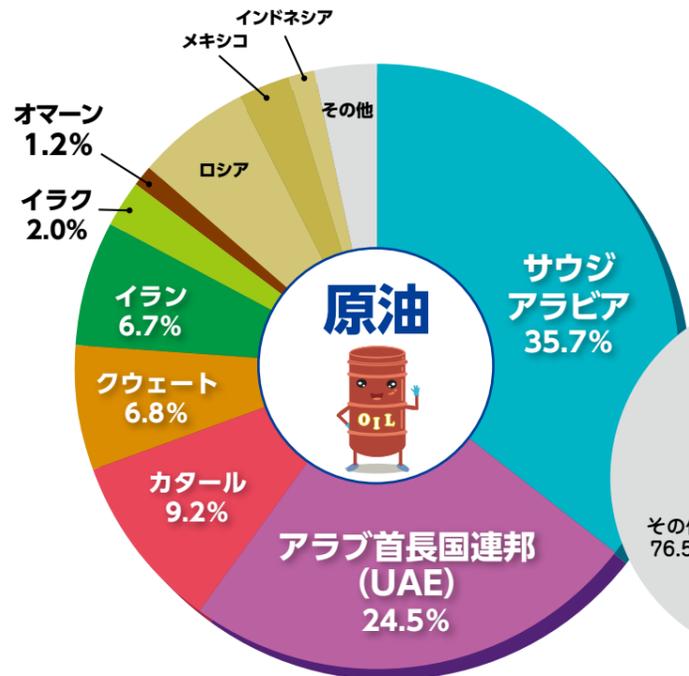


日本と湾岸諸国の関係

若年層人口の増加がめざましい湾岸諸国では、潤沢なオイルマネーを活用した急速な開発と、富裕層・中間層の拡大が進んでいます。そんな湾岸諸国と日本との関係を見てみましょう。

エネルギー供給からみる共存関係

日本の原油・液化天然ガス(LNG)輸入量の国別割合



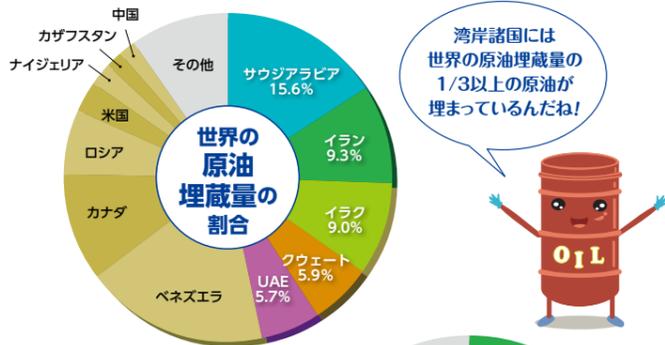
エネルギー源を輸入に頼る日本。総輸入量の実に約85%の原油、約25%の液化天然ガス(LNG)を湾岸諸国から輸入しています。日本が湾岸諸国にエネルギー源を大きく依存していることがわかります。

ほとんどの原油は湾岸諸国から輸入しているんだね。



出典:財務省貿易統計[2016年]

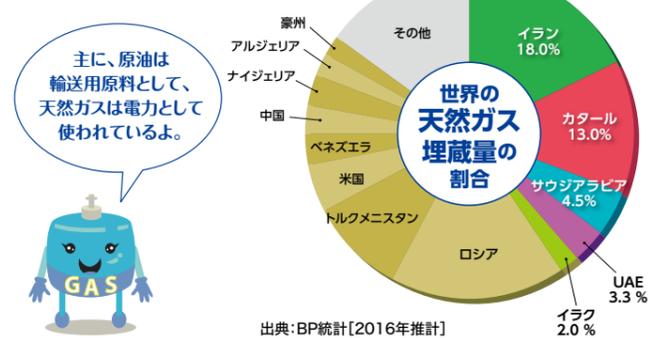
世界の原油・天然ガスの埋蔵量



湾岸諸国には世界の原油埋蔵量の1/3以上の原油が埋まっているんだね!



出典:BP統計[2016年推計]



主に、原油は輸送用原料として、天然ガスは電力として使われているよ。



出典:BP統計[2016年推計]

日本と湾岸諸国のこれから

～石油依存からの脱却～

相互協力による発展に向けて

オイルマネーによって経済発展を進めてきた湾岸諸国ですが、石油依存からの脱却を目指して、さまざまな産業を育成するための経済設計を進めています。エネルギー資源のほとんどを輸入に頼る日本は、原油やLNGの貿易を中心とする関係を湾岸諸国と長く築いてきました。近年では、湾岸諸国の改革の動きも踏まえ、幅広い分野における関係強化を目指しています。

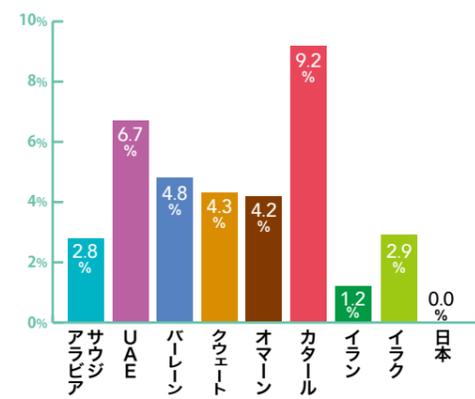


湾岸諸国には砂漠地帯も広がっています。雄大な大自然のすばらしい景色も楽しめます。

発展が進むドバイ。世界的な観光地として有名です。

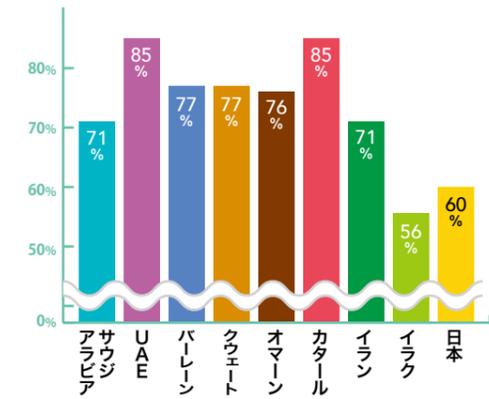
日本と湾岸諸国のこれからを見据えて

2000-2016年の年平均人口増加率



出典:世界銀行

全人口に占める生産年齢人口



出典:世界銀行

※イラクでは若年層人口が非常に多い。

湾岸諸国と日本の多層的関係 ～新しい社会を目指して～

文化・教育分野での連携

石油依存からの脱却と産業の多角化に加えて、文化・教育に関する取組を各国は推進しています。

お互いの国に対する理解を深め、その長所を取り入れるため、日本とも協力しています。日本の学校で行われている生徒による掃除活動を取り入れた国もあるとか。



UAEでは日本をモデルに道徳教育が取り入れられました。

日本の教育に対する中東諸国の関心は高まっています。



将来性溢れる市場 ～湾岸諸国の可能性～

新たな市場への期待

湾岸諸国では、人口も増加傾向で、若い世代に溢れています。つまり、経済や文化の発展に、大きな

将来性・可能性を秘めているということ。加速する女性の社会進出やオイルマネーに頼らない経済発展を目指す国策も追い風となり、世界からその将来を期待されています。



女性の社会進出が進んでいます。政府要職に多くの女性が登用されている国も。

日本企業も数多く進出しています。



な～るほどメモ イスラム教・習慣編

どんな宗教なの?

イスラム教は、7世紀に誕生した、アッラー(唯一の神)を信仰する宗教です。信徒は「ムスリム」と呼ばれ、世界中に約16億人の信者がいるといわれています。

1日に5回のお祈り?

そうなんです。ムスリムは原則1日に5回、聖地であるサウジアラビアのメッカの方向を向いてお祈りをします(宗派によって礼拝の回数は異なります)。昔はメッカの方向を調べるために、方位磁石などを使っていたそうですが、今はメッカの方向がすぐわかるスマホアプリなども登場しています。



1年に1度、1カ月間も断食をするの?

イスラム暦という9月、ムスリムは1カ月の断食を行います。断食には、貧しい人の気持ちを知るといった考えが背景にあります。そんなに断食したら死んでしまう!と思いますが、全く食べないということではなく、日が出ている間は食事をせず、日没後は食べても良いとのこと。断食月が終わると、新年のお祝いが始まります。イスラム暦は、月の動きと関係しているため、断食の月は毎年11日程度前にずれていきます。そのため、ムスリムは人生を通してさまざまな季節の断食を経験するそうです。

一夫多妻制って、本当?

イスラム教の教義にのっとり4人まで妻を持つことができます。ただし、全ての妻を平等に愛する義務が課せられています。実際に湾岸諸国の王族の中には複数の奥さんがいる場合も。ちなみに、一夫多妻は、イスラム教が誕生した時代に戦争が多かったため、寡婦を救済するためのものだったといわれています。